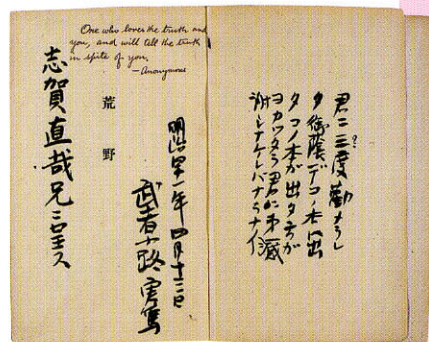


# もっと知りたい

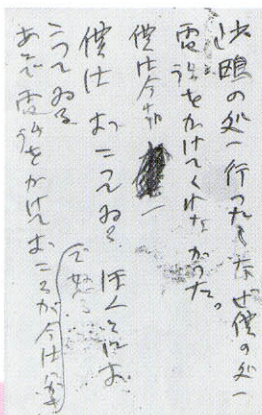
## 武者小路実篤

むしゃこうじさねあつ  
武者小路実篤と志賀直哉は、学習院中等学科5年の時に同級となり、知りあいます。まもなく、心を打ち明けて話すことができる仲になり、時には意見を戦わせたり、けんかもしました。二人はいろいろな経験を積み重ねながら、お互いを認めあい、生涯にわたって大切な友だちとなりました。

二人は学校の文学好きな仲間と、明治43(1910)年4月、雑誌『白樺』を創刊します。この雑誌は、大正時代の文学や美術の新しい流れを作り、多くの人々に影響を与えます。二人が出会ったことがきっかけとなり、お互いが文学の道へ進むことになりました。



◆『荒野』 明治41(1908)年  
実篤が最初に出版した本。志賀の勧めでこの本が出来たお礼を書いている。  
「君二三度勸メラレタ御蔭デコノ本出タ。コノ本が出タ方ガヨクウツラ君二第一ニ感謝シナケレバナラナイ」



◆実篤から志賀直哉あてのはがき  
明治41(1908)年9月29日  
この頃は、毎日のように会いながらも、さらに手紙を送っています。時にはけんかした二人。実篤が志賀に率直な気持ちを書いています。



◆徒歩旅行記念写真 明治39(1906)年  
富士山から赤城までを徒歩旅行し、二人のきずなを深めた。

その時、始めて志賀が、有島が西洋へ行つてから、本当に心を打ち明けて話す友達がいないので、彼にそう云う友達になつてほしいようなことを、何かの話のついで、云つた。このことは彼には意外であつたと同時にうれしかった。

(武者小路実篤「或る男」89章)

\*...画家・有島生馬のこと。

### あなたは?

- 心を打ち明けて話せる友だちがいますか?
- 大切な友だちと感じる時は、どんな時ですか?

こんな人

志賀直哉 (1883~1971年)

小説家。鋭い神経と強い自我意識から生み出される独自の世界を、簡潔で力に満ちた文体で表現。代表作に「網走まで」「暗夜行路」など。

実篤と志賀は年をとっても親しくつきあい、互いを思いやる気持ちで結ばれている友だちでした。



◆友情の杖 昭和38(1963)年  
志賀直哉が実篤のために作った杖。



◆常磐松の志賀邸で 昭和38(1963)年  
左：実篤(78歳)、右：志賀直哉(80歳)

### 「武者小路と私」

志賀直哉

武者との交りはもう三年経てば半世紀になる。武者と私とは随分異つた性質もあり、こまごました点では寧ろ反対なことが多いが、会つて、一番心に近く感じ、別れて後まで愉しい気持を残してくれるのは矢張り武者小路である。

(中略)

和不同、——これは書を頼まれた時、武者が好んで書く言葉だが、二人の間ではこの言葉が理想的に行つている事を私は誇りとしている。

私は私の人生で、武者という人間に出会はずなかつた場合を想像する事は出来ない。

(『調和』第一号 昭和25年5月 調和社)

### 「友情の杖」

武者小路実篤

「気軽に話をしてしている時、志賀が自分がかげずつたのだと言って杖をくれた。(中略)このもらった杖で庭を歩こう、歩く時この杖をつかうと志賀と一緒にいる気がすると思つた。」

(『この道』昭和38年4月号)

あなたは？

- 友だちを励ますとしたら、どんな事ができますか？
- あなたと友だちの間は、どんな言葉で表現できますか？

◆「直哉兄」 昭和45(1970)年 個人蔵  
実篤が病気の志賀直哉を励ますために書いた。

